



教育は
未来へつなぐ
希望の輪

2026年7月8日(水)
愛知県教育委員会高等学校教育課
進路指導グループ
担 当 大河、桑原
内 線 3896、3916
ダイヤルイン 052-954-6786

愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（令和8年度第2回） の開催について

愛知県教育委員会は、1963年に教育長からの諮問により入学者選抜方法に関する事項について研究協議を行う機関として、愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会を設置しました。以降、この協議会は、入学者選抜方法の改善に大きな役割を果たしています。

この度、2026年5月20日(水)に開催した第1回協議会議に続き、下記のとおり本年度第2回の協議会議を開催しますので、お知らせします。

なお、協議会議の結果は、会議当日午後3時頃に資料配布します。

記

1 日時

2026年7月22日(水) 午前10時から午前11時30分まで

2 会場

愛知県庁本庁舎 6階 正庁
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

3 委員

26名(裏面「委員名簿」のとおり)

4 議題

愛知県公立高等学校入学者選抜方法について

〔諮問事項〕

「特色選抜」の在り方について

令和8年度愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議
委員 名簿(順不同・敬称略)

◎愛知教育大学教育学部数学教育講座名誉教授	飯島	康之
○日本福祉大学国際学部国際学科教授	よね米	あき明彦
愛知教育大学教育学部情報教育講座教授	うめ梅	きよう恭子
愛知教育大学教育学部学校教育講座准教授	いし石	みね嶺 ちづる
名古屋大学教育連携基盤本部特任准教授	たちばな橘	はる春 菜
名工学園理事長	はやし林	ふみ文 敏
トヨタ自動車株式会社人材開発部採用・計画室 技能系採用グループ長	ご後	とう藤 幸 治
名古屋銀行人材開発部人事グループ係長	い伊	とう藤 奈々代
愛知県地域婦人団体連絡協議会副会長	すず鈴	き木 みどり
愛知県公立高等学校PTA連合会長	い伊	よた 英 貴
愛知県小中学校PTA連絡協議会長	たけ竹	した下 修 平
名古屋市教育委員会教育支援部長	すぎ杉	やま山 美津夫
北名古屋市教育委員会教育長	まつ松	むら村 光 洋
田原市教育委員会教育長	い伊	とう藤 正 徳
愛知県立明和高等学校長	くり栗	き木 晴 久
愛知県立岡崎高等学校長	やま山	わき脇 正 成
名古屋市立菊里高等学校長	く久	き木 隆 宏
愛知県立豊丘高等学校長	まき牧	の野 美 和
長久手市立北小学校長	か加	とう藤 ひろ 也
名古屋市立東桜小学校長	か加	が賀 幸 一
武豊町立武豊中学校長	すず鈴	き木 和 久
名古屋市立若葉中学校長	に二	かい階 まこと 亮
愛知県立豊田南高等学校教諭	ほり堀	な直 よ 予
名古屋市立工芸高等学校教諭	か加	とう藤 つかさ 司
東海市立名和小学校教諭	はやし林	やす泰 ひろ 弘
名古屋市立植田北小学校教諭	もり森	よし義 ひろ 裕

◎は議長、○は副議長

愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（令和8年度第2回）について

1 協議について

5月20日（水）に開催された愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（令和8年度第1回）において、教育長から飯島議長に諮問を行った。今回、諮問事項について、専門委員会のまとめに基づいて協議が行われる。

2 諮問事項について

本年度の諮問事項は次のとおりである。

「特色選抜」の在り方について

○ 諮問理由

2020（令和2）年1月に開催された本協議会議のまとめを受け、同年6月に「愛知県公立高等学校入学者選抜制度の改善に関する検討会議」（以下「検討会議」という。）を設置した。同年11月には、全日制課程における新たな入学者選抜制度の大枠として、一般選抜において2校への志願を可能とする仕組みを維持しつつ、学力検査は1回とするとともに、高等学校・学科の特色を生かした新たな選抜方法として「特色選抜」を設けることなどが検討会議において示された。具体的な選抜方法を定めるため、2021（令和3）年の本協議会議において協議を行い、その結果、「特色選抜」については、実施時期を「推薦選抜」と同時期の2月上旬とするとともに、実施可能な高等学校・学科について、職業学科や専門学科、総合学科に加え、コースの設置やSSHなど特色ある教育課程を有する普通科や、地域貢献を特色とする高等学校と定め、高等学校長が実施の有無を判断できることとした。また、入学検査については、志願者全員に面接を実施することとし、これに加えて、作文、基礎学力検査、プレゼンテーション及び特別検査のうちから高等学校長が定めるいずれか一つを行うこととした。

協議の結果を踏まえ、「特色選抜」は2023（令和5）年度入学者選抜から実施し、2026（令和8）年度入学者選抜まで4回実施したところである。現在、志願者及び中学校に浸透し、志願者の興味・関心や得意分野を生かした受検機会として認識が広がっている。

一方で、職業学科では多くの学校が実施しているのに対し、普通科では実施校が限られており、志願者が選択できる機会に差が生じている。また、入学検査の内容と実施校が示している特色に差異があるとの誤解を志願者に与えている状況が一部で生じている。

このような状況から、それぞれの高等学校の特色がより生かされ、志願者にとって選択肢がさらに広がる選抜となるよう、「特色選抜」の在り方について、改めて協議する必要がある。